



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

始



總説

本道の總面積は六千五百五十五方里にして四國九州に臺灣を合せたるものと略ぼ相同しく海岸線一千三百五十餘里にして漁業の利に富み原野廣く且肥沃にして耕作牧畜に適し山には樹木繁茂して十數億石の良材を有し加ふるに礦物の蘊蓄其幾何なるを知らず。世には氣候の寒冷を云ふものあるも之を歐洲諸國に比すれば概して溫暖の方にして例年四月に至り融雪し夏期は最高溫度華氏九十度に達し能く植物を生育せしめ而かも朝夕涼くして甚だ心地よく秋季九月下旬若くは十月に至り初霜を看十一月若くは一月初より降雪あり一二月の頃其深さ一尺乃至四尺となり寒氣強きも衛生に宜しく殊に積雪期間は伐木運搬に便利なり。人口は明治二年開拓使設置の頃は僅に八九萬人に過ぎざりしが北海道廳の設置せられたる明治十九年には三十萬に達し四十四年末に於ては戸數三十一万一千三百廿六、人口百六十六萬七千五百九十三人を算し十九年に比ぶれば實に五倍餘の増加なり。されど之を奥羽地方人口の割合より見るときは猶ほ優に四百萬人を容るゝを得べく拓殖の餘地極めて多大なるものあり。各種の事業は未だ創業の域を脱せざるもの多しと雖も明治四十四年に於ける生産額は實に壹億萬圓以上に達し就中農産は年額四千萬圓に及び各種生産物中最も多額を占め將來農耕地開拓の進歩と共に數倍するや必せり。工業は年額一千八百八十萬圓にして農産に次ぎ水産は年額一千三百七十餘萬圓之に製造水産物を合すれば二千七百餘萬圓に及びり。其他林業牧畜蠶業等皆着々發達しつつあり。今後拓殖の施設經營と相俟つて各種産業の發展將に計るべからざるものあらんとす。

拓殖

殖民地 本道の總面積を段別に換算すれば九百五十七萬二千四百餘町歩にして此内より湖沼河川道路堤防敷地及千島諸島を控除するも尚ほ七百七十餘萬町歩を有し其内殖民地即ち耕作牧畜適地として撰定したる所既に二百五十萬町歩に達せり。殖民地撰定の業は明治十九年に始め爾後繼續して今日に至れるものにして撰定地の内耕作に適する所は多くは區畫を測設せり是れ區畫を施設するときは土地の整理に都合よきのみならず移住者を入るゝに甚だ便利なるによれり。區畫の方法は縱横に兩基線を施し其基線に準して平行線を設け之を大中小の三段に區別し小畫は通常一戸分と稱し其面積五町歩、中畫は小畫六個を合せ其面積三十町歩、大畫は中畫九個を合せ其面積二百七十町歩とす。而して既に撰定せし土地の外今後尚ほ撰定すべき土地少なからざるを以て結局殖民地の總面積は約三百五十萬町歩に達すべき見込みなり。

土地改良

本道には比較的大地積の泥炭地及濕地あり是等は適當なる排水其他の改良工事を施すに於ては良好なる耕地となるべきを以て從來道廳に於て改良工事を施したる所少なからざるも尚ほ餘す所十四五萬町歩あるを以て今後漸次之が改良をなさんとす又本道は根室釧路を除くの外は概ね米作に適するを以て水田の開発を奨励し企業者の爲め灌漑溝の調査設計をなし且灌漑及排水溝の開鑿工事に對し相當の補助を與へ來れり。尙ほ今後一層之か助長に努むると共に本年度より各河川水利の統一を圖りて水田の開発に便せんが爲め之が基本調査に着手せんとす。

未開地處分

明治五年十月始めて北海道土地賣買規則を定め十九年六月土地拂下規則を以て之に代へ三十年三月更に未開地處分法の發布あり。四十一年に至り重ねて處分法を改正し賣地特定地の區分を立て特定地は自作農業の目的を以て來道せ

(三)同目的を以て移住し未だ所有地貸付地又は小作地を得ざる者(四)所有地貸付地又は小作地を有するも地積僅小にして生計上他の土地を必要とする者(五)中等以上の農業教育を受け部落の農事を指導し得る者に無償貸付し其翌月より六箇月以内に其地又は附近に居住せしめ成功の後無償付與するものとす。其面積は普通五町歩なるも牛馬を飼養し混同農業をなさんとする者には十町歩迄を貸付す。成功期限は賣拂地特定地の別なく十町歩以内は五箇年、三十町歩以内は八箇年、三十町歩以上は十箇年とし植樹又は泥炭地の事業は特に二十箇年まで延長するを得尙ほ天災等のため事業の後ろ、場合は豫定期間の五割迄を延長するを待てし。賣買又は貸付する土地は總て道廳に於て告示し、が故に何人も之に依り希望の土地を出願するを得べし。尙ほ北海道移住民規則に依り證明を受け自作を目的とする者十戸以上團結して一箇年以内に移住せんとするときは他の願人に先ち殖民地區畫豫定地又は特定地内に於て貸付地豫定存置を出願し得るの特典あり。

移住

開拓使並に三縣時代は移住者に金品を與へて之を保護せしが道廳に至り之を廢し殖民地を撰定し交通の便を圖り農産の資料を調査發表し開墾を指導する等間接に移住開墾の便宜を與へ尋て渡航保護其他種々施設する所あり。即ち(一)二十府縣の吏員に移民事務取扱を囑托し(二)青森、福島、名古屋、神戸、伏木の五箇所に毎年十一月より翌年五月迄移民取扱事務所を設け又本道の函館、小樽、室蘭に同事務所を常設し其他の要港に臨時開設し(三)青森の北海道移住民保護組合、伏木の北海道移住民共立組合、神戸の北海道移住民周旋組合に手當を給して移住者に便宜を與へしめ(四)汽車貨運船賃の割引券を交付し(概ね五割減)殊に北海道の汽車は大部分無賃とし(五)移民百名以上を搭載する船舶は警察官署に於て特別の取締をなし三百名以上乗船の場合には警察官を附添はしめ(六)新移住者たる證憑書類を有する者には未開地の貸付賣拂に便宜を與へ(七)農業者には移住後三年間地方費の戸數割、又未開地處分法による付與地は二年間段別割を免除せり。近年一箇年來住者の數六七万人にして奥羽、北陸道、四國地方の者を主とし東京、岐阜、愛知、兵庫、鳥取、廣島、岡山、奈良、滋賀、山梨等の諸府縣人之に次ぐ來住者の過半は農民に屬し多くは先に移住せる親戚知己をたより若くは團體を組織して移住するを以て其成績良好にして困難するもの稀なり。道廳は移住手引草、移住の契及殖民公報等を發行し府縣廳郡市役所町村役場農會等に配布して本道の狀況並に移住に關する要件を周知せしむるに努め又新移住者に對しては殊に技術者を移住地に派遣して開墾其他の事を指導せしめつつあり。

産業

農業 農業は遠く徳川幕府の頃に始まり開拓使以來種々獎勵の制を設けて開墾事業の進捗を圖りし結果耕作反別年々増加し最近の統計によれば畑地五十三萬五千七百六十九町餘歩水田四萬四千四百七十九町餘歩に達し道民の約半數は斯業に従事せり農作物の主要なるは米、麥類、豆類、黍、玉蜀黍、蕎麥、馬鈴薯、亞麻、苧麻、薄荷、荊芥等とす。水田は近年大に増加し收穫米四十七萬四千石餘に達し就中米作の盛なる地方は石狩國にして膽振、渡島、後志等之に次ぐ。全道中の農産總價額は一箇年約四千萬圓に及び將來益々其産額を増加せんとす。次に本道は到る處天然の良桑に富み氣候亦養蠶に適するを以て農家の副業として養蠶を爲すもの漸く多く全道の收購高六千九百三十九石とす農事試験場は本場を札幌に支場を渡島、上川、十勝、北見の

木の種類は樺、松、蝦夷松、樺、胡桃等五十餘種にして建築木、經木、澁液等の原料其他薪は土木用等として其用途盛なり技術者を各地に派して指導せし法を傳習せしむ。植樹も近年之楊等を栽植せり。

漁業

本道は魚族の豊富なるへられ沿岸線本島六百六十里にして大小六萬八千餘の漁船を出を見るは疎にして一箇年の收し之に次ぐは昆布の百三十三萬八十五萬餘圓、鰻の七十一萬餘十萬餘圓、海扇の三十六萬餘圓、鱈、鰯、鮭、鮪、大鰆、鰯、草、若布、海苔等なり。海獸類少せり。各地に水産調査所及水産指導並鮭鱒の人工孵化をなしの改良を奨励せり。

鑛業

開拓使以來之が調査に爾來民間に有力なる起業者續出り。現時に於ける重なる鑛産物砂金、滿庵、石油等にして鑛區四億四千七百七十一萬四百八坪數一億五千五百六十五萬三千五百五十三砂鑛區二十六にして一及べり。就中石炭は産額豊富にる所なり現時大なる炭山は夕張、幾春別等石狩煤田中にあるもの田は未だ多くは採掘せられず。金鑛鑛物は近年各地に發見せられ振國の幌別鑛山は金銀銅を産す。

工業

開拓使時代主要の工場りて之を拂下げしが爾來長足の進みて年額一千八百八十餘萬圓に達し清酒三百八十六萬餘圓、西洋紙四萬餘圓、セメント九十九萬餘圓、麻糸四十八萬餘圓、織物三十七萬餘圓、精四十五萬餘圓、機軸六十六萬餘圓、小麥粉四十九萬餘圓、罐詰六十六萬餘圓、綿糸網、生絲、人造肥料、刻昆布、氷、清冷飲料水、晒箔、業原料に富むを以て將來斯業の發達を期す。函館、小樽、室蘭、釧路の重要商港なり。就中函館は本道の樞要地に位し内國は勿論海外に及ぶるなし。室蘭は近年發達して道開通以來海陸貨物の輸出を増加し他商港には江差、釧路、岩内、網走、商業地としては札幌、旭川等あり。

將に計るべからざるものあらんとす。

拓殖

殖民地 本道の總面積を段別に換算すれば九百五十七萬二千四百餘町歩にして此内より湖沼河川道路堤防敷地及千島諸島を控除するも尙ほ七百七十萬餘町歩を有し其内殖民地即ち耕作牧畜適地として撰定したる所既に二百五十萬町歩に達せり。殖民地撰定の業は明治十九年に始め爾後繼續して今日に至れるものにして撰定地の内耕作に適する所は多くは區畫を測設せり是れ區畫を施設するときは土地の整理に都合よきのみならず移住者を入るゝに甚だ便利なるによれり。區畫の方法は縱横に兩基線を施し其基線に準じて平行線を設け之を大中小の三段に區別し小畫は通常一戸分と稱し其面積五町歩、中畫は小畫六個を合せ其面積三十町歩、大畫は中畫九個を合せ其面積二百七十町歩とす。而して既に撰定せし土地の外今後尙ほ撰定すべき土地少なからざるを以て結局殖民地の總面積は約三百五十萬町歩に達すべき見込なり。

土地改良

本道には比較的大地積の泥炭地及濕地あり是等は適當なる排水其他の改良工事を施すに於ては良好なる耕地となるべきを以て從來道廳に於て改良工事を施したる所少なからざるも尙ほ餘す所十四五萬町歩あるを以て今後漸次之が改良をなさんとす又本道は根室釧路を除くの外は概ね米作に適するを以て水田の開発を奨励し企業者の爲め灌漑溝の調査設計をなし且灌漑及排水溝の開鑿工事に對し相當の補助を與へ來れり。尙ほ今後一層之が助長に努むると共に本年度より各河川水利の統一を圖りて水田の開発に便せんが爲め之が基本調査に着手せんとす。

未開地處分

明治五年十月始めて北海道土地賣買規則を定め十九年六月土地拂下規則を以て之に代へ三十年三月更に未開地處分法の發布あり。四十一年に至り重ねて處分法を改正し賣拂地特定地の區分を立て特定地は自作農業の目的を以て來道せる移住民に無償にて貸付し事業成功の上付與し賣拂地は其地の立木と共に賣拂ふ事とせり是れ即ち現行處分法なり。賣拂に就ては一人に賣拂ふ地積及其の價格左の如し。

種別	一人に對する地積	一町歩に對する價格
耕作に供する土地	五百町歩以下	金四圓五十錢以内
牧畜に供する土地	八百町歩以下	金三圓以内
植樹に供する土地	八百町歩以下	金一圓五十錢以内
其他の目的に供する土地	十町歩以下	

會社組合其他共同して事業を経営せんとする者に對しては其資本及人員に應じ前項面積の五倍迄累加することを得せしむ尙ほ三十町歩以上の土地賣拂を受けんとするには三年以上左の標準の直接國稅を納付し仍ほ引續き納稅する者に限り其區別左の如し

百町歩以下	納稅額五圓以上
二百町歩以下	同 十二圓以上
三百町歩以下	同 二十圓以上
四百町歩以下	同 三十五圓以上
五百町歩以下	同 五十圓以上
八百町歩以下	同 七十五圓以上

會社にありては出資又は拂込を了りたる資本の總額百町歩に付一萬圓以上の割合なるを要し組合に在りては各人の納稅額を通算す。特定地は戸主又は成年者にして自ら農業をなさんとす者の爲めに設けたる土地にして(一)北海道移住民規則に依る團結移住者(二)耕作の目的を以て新に移住し其證憑書類を携帯する者

開設し三青森の北海道移住民保護組合、伏木の北海道移住民

立組合、神戸の北海道移住民周旋組合に手當を給して移住者に便宜を與へしめ(四)汽車貨運船貨の割引券を交付し(概ね五割減)殊に北海道の汽車は大部分無賃とし(五)移民百名以上を搭載する船舶は警察官署に於て特別の取締をなし三百名以上乗船の場合には警察官を附添はしめ(六)新移住者たる證憑書類を有する者には未開地の貸付賣拂に便宜を與へ(七)農業者には移住後三年間地方費の戸數割、又未開地處分法による付與地は二年間段別割を免除せり。近年一箇年來住者の數六七万人にして奥羽、北陸道、四國地方の者を主とし東京、岐阜、愛知、兵庫、鳥取、廣島、岡山、奈良、滋賀、山梨等の諸府縣人之に次ぐ來住者の過半は農民に屬し多くは先に移住せる親戚知己をたより若くは團體を組織して移住するを以て其成績良好にして困難するもの稀なり。道廳は移住手引草、移住の乘及殖民公報等を發行し府縣廳郡市役所町村役場農會等に配布して本道の狀況並に移住に關する要件を周知せしむるに努め又新移住者に對しては殊に技術者を移住地に派遣して開墾其他の事を指導せしめつゝあり。

産業

農業 農業は遠く徳川幕府の頃に始まり開拓使以來種々獎勵の制を設けて開墾事業の進捗を圖りし結果耕作反別年々増加し最近の統計によれば畑地五十三萬五千七百六十九町餘歩水田四萬四千四百七十九町餘歩に達し道民の約半數は斯業に従事せり農作物の主要なるは米、麥類、豆類、黍、玉蜀黍、蕎麥、馬鈴薯、亞麻、雲苔、薄荷、苹果等とす。水田は近年大に増加し收穫米四十七萬四千石餘に達し就中米作の盛なる地方は石狩國にして膽振、渡島、後志等之に次ぐ。全道中の農産總價額は一箇年約四千餘萬圓に及び將來益々其產額を増加せんとす。次に本道は到る處天然の良桑に富み氣候亦養蠶に適するを以て農家の副業として養蠶を爲すもの漸く多く全道の收購高六千九百三十九石とす農事試驗場は本場を札幌に支場を渡島、上川、十勝、北見の四箇所に置く其他地方費に屬する試作場數箇所あり。道農會、郡農會、町村農會等の設置亦缺く所なし。其他道廳に於ては農事指導、種苗配付、病蟲害驅除豫防及施肥の獎勵等に努め殊に蠶業に關しては種々補助獎勵をなせり。

牧畜業 往時は牛馬共に四季放牧をなし蕃殖に専らなりしも開拓使以來漸次之が改良に努め大に觀るべきものあるに至れり現時馬數十七萬三千八百四十三頭あり牧馬業の發達は東海岸即ち膽振日高十勝釧路根室地方を主とし就中日高國は本道第一の產馬地と稱せらる是れ此地方は積雪少く風土氣候の牧馬に適するに因るなり。畜牛は二萬二千二百五十二頭あり石狩國を最とす是れ同國は從來種畜場其他改良機關の整へると牛乳の販路多きとに因れり。此外養豚養鶏も亦農家の副業として年を逐ひて盛ならんとす。民設牧場數は漸次増加し本道牧畜業の前途頗る有望なり。斯業改良機關としては北海道廳種畜場、日高及十勝種馬牧場、月寒種畜場並各地に産牛馬組合等あり新冠御料牧場も亦斯業を誘掖せしこと多し。且道廳に於ては産牛馬組合補助規程輸入牝牛補助規程を設け或は畜牛結核病検査、馬匹去勢及畜産業指導等をなして斯業の發達を期せり。

林業 本道の森林は國有林四百一萬五千町歩、御料林六十萬七千町歩、大學林七萬六千町歩、公私有林三十萬町歩、合計五百萬餘町及國有未開地の幾分にして悉く原生林に屬し林相頗る美なり。昔時は開墾に際し林木の處置に苦み概ね燒棄つるを常とせしも拓殖の進歩と共に交通機關の設備漸く成るに及び益々之が利用を増加し内國は勿論支那北米合衆國及英國等に輸出せらるゝもの多く最近の林産年額一千九十四萬餘圓に達せり。樹

り。現時に於ける重なる鑛砂金、滿庵、石油等にして四億四千七百七十一萬四千餘圓五千萬五百六十五萬二千餘圓砂金鑛區二十六に及べり。就中石炭は産額豐る所なり現時大なる炭山は幾春別等石狩煤田中にある田は未だ多くは採掘せられ金鑛鑛物は近年各地に發見振國の幌別鑛山は金銀銅を工業 開拓使時代主要のりて之を拂下げしが爾來長きて年額一千八百八十餘萬清酒三百八十六萬餘圓、西四萬餘圓、セメント九十九萬餘圓、麻糸四十八萬餘圓、織物三精四十五萬餘圓、構寸軸木小麥粉四十九萬餘圓、鐵詰菜種油、綿糸網、生絲、人刻昆布、氷、清冷飲料水、業原料に富むを以て將來斯商業 函館、小樽、室蘭の重要商港なり。就中函の樞要地に位し内國は勿論らざるなし。室蘭は近年發道開通以來海陸貨物の輸出他商港には江差、壽都、岩商業地としては札幌、旭川移出總額は七千三百十萬餘林産、鑛産、工業品等之にして米其三分の一を占め廷、紙類等之に次ぐ。又外餘圓にして木材、海産物、萬餘圓にして工業、材料、額二百十九萬餘圓、輸入額しては本道内に本店を有すの支店十九あり。

土木

道路 從來多少道路の開百九十四里に過ぎず。十九に至り千三百九十一里餘にき四十二年迄に國費を以て於て開鑿せしものを合すれ四十二年に至り更に拓殖計國費約千五百萬圓を投じ新の施設と相俟て少くも四千關の實績を挙げんとす已にもの二百四十二里餘なり。

驛遞 拓殖道路の開鑿に客の宿泊貨物の運送等に便して拓殖上缺くべからざる二百三十二馬四千五百八十五鐵道 開拓使に於て幌内

り。現時に於ける重なる鑛砂金、滿庵、石油等にして四億四千七百七十一萬四千餘圓五千萬五百六十五萬二千餘圓砂金鑛區二十六に及べり。就中石炭は産額豐る所なり現時大なる炭山は幾春別等石狩煤田中にある田は未だ多くは採掘せられ金鑛鑛物は近年各地に發見振國の幌別鑛山は金銀銅を工業 開拓使時代主要のりて之を拂下げしが爾來長きて年額一千八百八十餘萬清酒三百八十六萬餘圓、西四萬餘圓、セメント九十九萬餘圓、麻糸四十八萬餘圓、織物三精四十五萬餘圓、構寸軸木小麥粉四十九萬餘圓、鐵詰菜種油、綿糸網、生絲、人刻昆布、氷、清冷飲料水、業原料に富むを以て將來斯商業 函館、小樽、室蘭の重要商港なり。就中函の樞要地に位し内國は勿論らざるなし。室蘭は近年發道開通以來海陸貨物の輸出他商港には江差、壽都、岩商業地としては札幌、旭川移出總額は七千三百十萬餘林産、鑛産、工業品等之にして米其三分の一を占め廷、紙類等之に次ぐ。又外餘圓にして木材、海産物、萬餘圓にして工業、材料、額二百十九萬餘圓、輸入額しては本道内に本店を有すの支店十九あり。

砂金、滿庵、石油等にして鑛區数は試掘六百五十八鑛區其坪數四億四千七百七十一萬四千八百坪、探掘特許二百八十一鑛區此坪數一億五千五百六十五萬三千五百七十七坪、此外砂金鑛區三百五十三砂鑛區二十六にして一箇年總產額八百二十五萬餘圓に及び。就中石炭は産額豊富にして其質の優良なるは世人の知る所なり現時大なる炭山は夕張、新夕張、幌内、空知、奔別及幾春別等石狩煤田中にあるものにして釧路、天鹽、宗谷等の煤田は未だ多くは採掘せられず。硫黄は渡島後志其他各處に産す金鑛鑛物は近年各地に發見せられ後志國の國富及後志鑛山、膽振國の幌別鑛山は金銀銅を産す。

工業 開拓使時代主要の工場は悉く之を官設し北海道廳に至りて之を拂下げしが爾來長足の發達をなし今や工業は農産に次ぎて年額一千八百八十餘萬圓に達せり。其産額の著しきものは清酒三百八十六萬餘圓、西洋紙三百二十七萬餘圓、醬油百二十四萬餘圓、セメント九十九萬餘圓、薄荷取卸九十九萬餘圓、亞麻糸四十八萬餘圓、織物三十七萬餘圓、麥酒四十五萬餘圓、酒精四十五萬餘圓、燐寸軸木六十五萬餘圓、澱粉八十七萬餘圓、小麥粉四十九萬餘圓、罐詰六十五萬餘圓等にして其他諸機械、菜種油、綿糸網、生絲、人造肥料、煉瓦、燐炭、硝子、沃度、刺昆布、氷、清冷飲料水、晒箔、柳行李等あり。本道は各種工業原料に富むを以て將來工業の發展は著しきものあるべし。

商業 函館、小樽、室蘭、釧路、根室の五港は外國貿易を兼ねる重要商港なり。就中函館は本道南東部の咽喉、小樽は西北部の樞要地に位し内國は勿論海外貿易も亦其大部分は此二港に依らざるなし。室蘭は近年發達して木材及石炭を輸出し釧路は鐵道開通以來海陸貨物の輸出を増加し根室は水産物を輸出せり其他商港には江差、壽都、岩内、留萌、稚内、網走等あり内部の商業地としては札幌、旭川等あり。全道最近一箇年に於ける内國移出總額は七千三百十萬餘圓にして水産物其過半を占め農産、林産、鑛産、工業品等之に次ぐ移入總額は七千二百十五萬餘圓にして米其三分の一を占め呉服、太物、清酒、砂糖、煙草、繩、疋、紙類等之に次ぐ。又外國普通貿易は輸出總額七百五十三萬餘圓にして木材、海産物、硫黄、石炭等とし輸入價額は七十六萬餘圓にして工業、材料、鉄鐵、石油等とす漁業貿易は輸出總額二百十九萬餘圓、輸入總額五百一十一萬餘圓なり。金融機關としては本道内に本店を有する銀行十四其支店三十三、府縣銀行の支店十九あり。

土木及交通

道路 從來多少道路の開鑿を見しも明治十八年の現在僅に二百九十四里に過ぎず。十九年以後經營額に其歩を進め三十三年に至り千三百九十一里餘に達せり。三十四年より十年計劃に基き四十二年迄に國費を以て千九百八十八里を開通し此外區町村に於て開鑿せしものを合すれば總延長二千六百三十二里に達せり四十二年に至り更に拓殖計劃の確立と共に約十五箇年を期して國費約千五百萬圓を投じ新に千七百餘里の道路を開鑿し區町村の施設と相俟て少くも四千五百里以上に達せしめ以て交通機關の實績を擧げんとす已に四十三年度より昨年迄に開鑿したるもの二百四十二里餘なり。

驛遞 拓殖道路の開鑿に伴ひ僻陬の地に驛舎及馬匹を備へ旅客の宿泊貨物の運送等に便するため國費を以て施設せるものにして拓殖上缺くべからざる機關なりとす。現在の設備は驛遞所二百三十二馬四千五百八十五頭なり。

鐵道

開拓使に於て幌内炭山を開掘するや明治十三年始めて

別以下河口迄約十一里の區間に於ける缺填の最も甚しき箇所約一萬三千六百間に對し護岸工事を施行し高水工事は篠津より河口附近生振に達する約三里十町の放水路を築設し以て江別以下の市街及農耕地約二萬町歩に對する洪水の氾濫を除き旭川、深川及瀧川に於て忠別川石狩川及空知川に對し四千四百五十間の堤防を築設し以て前記三市街地を保護するものとす。石狩川治水工事は明治四十三年度より十五箇年間に施行するものにして此工費總額金六百五十三萬圓なりとす。

港灣 開拓上最も重大の關係ある港灣は小樽、釧路、留萌、函館、網走、根室、稚内及室蘭の八港とす現在の計劃に於ては右八港の修築と他の樞要なる港灣の調査を爲さんとすものにして目下工事中に屬するものは小樽、釧路、留萌及函館の四港なり。其計劃及工事の概要を擧げんに(一)小樽の第一期工事は明治三十年着手し四十一年竣功し防波堤約四千二百尺を築造し工費二百十八萬餘圓を要せり又第二期工事は防波堤約七千八百尺を築造し第一期工事に共に港内面積百四十三萬坪を被覆せんとするものにして十二箇年繼續工費豫算五百八萬餘圓を以て四十年度着手し昨年度迄に竣功したるもの防波堤三千五百尺とす(二)釧路は防波堤約四千五百尺を築造して港内面積四十四萬餘坪を被覆し其他阿寒川の付換床止工事並河口導水堤の築設、防砂堤の築設、港内及釧路川口の浚渫並床止工事等を施行せんとするものにして十二箇年繼續工費豫算四百七十五萬餘圓を以て四十二年度起工し昨年度迄に竣功したるもの防波堤千四百尺防砂堤百六十六尺釧路川床止工事なり(三)留萌は防波堤四千六百尺を築造して港内面積約四十萬坪を被覆し並内港の築設、留萌川の付換、外港の浚渫工事を施行せんとするものにして十二箇年繼續工費豫算三百九十二萬餘圓を以て四十三年度起工せり(四)函館は防波堤約三千三百尺並防砂堤の築設を爲さんとすものにして八箇年繼續工費豫算百六十六萬餘圓を以て四十三年度起工し昨年度迄に防波堤二百五十尺を築設せり。

補助航海

補助航海は明治十二年函館青森間の航海を補助せしに始り爾後漸次航路を増加せり。三十四年度以後刷新を加へ現今の航路は(一)函館網走擇捉線(二)函館大津線(三)根室近海線(四)函館瀨棚線(五)函館小樽線(六)小樽稚内線(七)小樽天鹽線(八)小樽網走線(九)石狩川線にして三箇年度を一期として國費六十二萬餘圓を支出せり。尙ほ將來擴張を要するものあり調査中に屬す。

教育及衛生

教育 施設の程度は府縣と同一なり。唯新開地の如きは最初より完全なる教育を施行するは民力の堪ふる所にあらざるを以て特別教育規程を設け簡易なる教育所を以て小學校に代用せしめ又一層簡易なる特別教授場を設け年齢十歳以上にして始めて就學する児童及舊土人児童或は農村漁落等に於て期節を限り出稼する者通學不便の場所に居住する者等の児童に便せり。現在小學校の數九百四十八、教育所三百二十六、特別教授所二百四十四あり就學の歩合は百人中九十八人三分とす。此外教育機關として東北帝國農科大學、高等商業學校、師範學校、中學校五、高等女學校五、實業學校十、實業補習學校百五十四、私立各種學校三十一あり。

衛生 本道の風土は衛生に適し傳染病患者の如き之を府縣に比すれば窒扶利亞、腸窒扶斯の二者多きも其他は著しく少なし。間歇熱は以前は新開地特殊の疾病の如く思はれしも今は減少して殆んど府縣と異ならず。全道醫師の數一千百十九人にして内大學卒業者七十九人あり病院は公立十二私立百一あり。又新開の村落等にして醫師の乏しき所には補助金を與へて村醫を置かしむ。飲水は各地概ね井水を用ひ泥炭性濕地の外は其實清良なり。

火漣道拓殖概覽

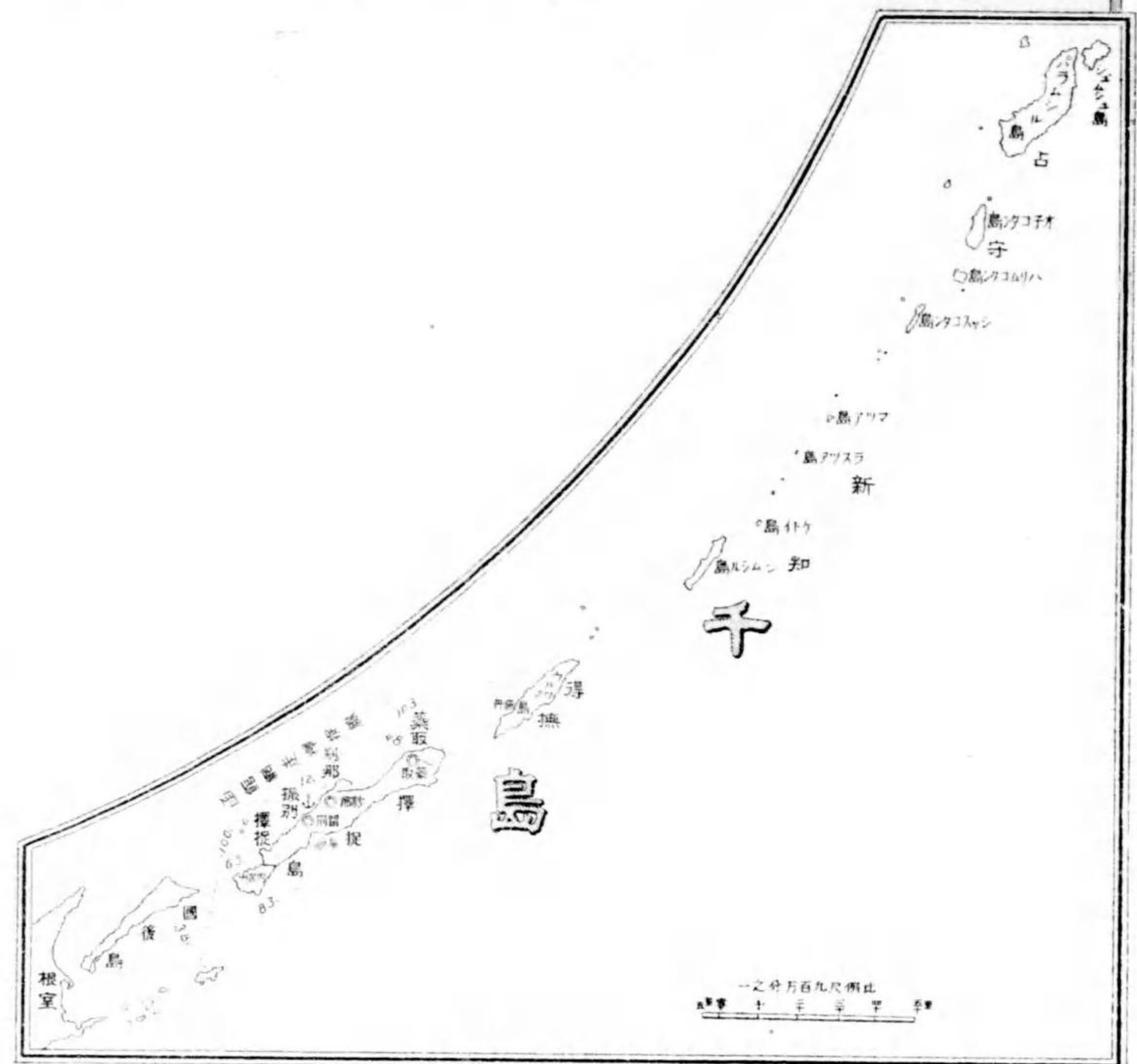
明治四十四年未現

比例尺二百二十萬分之一



圖解

北海廳	同支廳	區役所	一級町村役場	二級町村役場	戶長役場	既成鐵道線	未成鐵道線	豫定鐵道線	國界	郡界	村界	支廳管轄區域線	開鑿道路	未開鑿道路	航路	港口	國有林	官有地	御料地	公有地	民有地	農牧適地
-----	-----	-----	--------	--------	------	-------	-------	-------	----	----	----	---------	------	-------	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	------



戸口増殖、割合

年別	現	住	人口	増殖率
明治三十四年	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0%
明治三十五年	1,050,000	1,050,000	1,050,000	5%
明治三十六年	1,100,000	1,100,000	1,100,000	10%
明治三十七年	1,150,000	1,150,000	1,150,000	15%
明治三十八年	1,200,000	1,200,000	1,200,000	20%
明治三十九年	1,250,000	1,250,000	1,250,000	25%
明治四十年	1,300,000	1,300,000	1,300,000	30%
明治四十一年	1,350,000	1,350,000	1,350,000	35%
明治四十二年	1,400,000	1,400,000	1,400,000	40%
明治四十三年	1,450,000	1,450,000	1,450,000	45%
明治四十四年	1,500,000	1,500,000	1,500,000	50%

土地區分

種別	面積
國有林	1,234,567
官有地	987,654
御料地	765,432
公有地	543,210
民有地	321,098
官有林	109,876
公有林	87,654
民有林	65,432
未定分地	43,210
其他	21,098
備忘	9,876

主ナル市街地

市街名	戸数	人口
札幌	12,345	123,456
小樽	8,765	87,654
室蘭	6,543	65,432
苫小牧	4,321	43,210
釧路	3,210	32,109
帯広	2,109	21,098
旭川	1,098	10,987
網走	987	9,876
稚内	876	8,765
紋別	765	7,654
名寄	654	6,543
中川	543	5,432
十勝	432	4,321
釧路	321	3,210
阿寒	210	2,109
釧路	109	1,098
阿寒	98	987
釧路	87	876
阿寒	76	765
釧路	65	654
阿寒	54	543
釧路	43	432
阿寒	32	321
釧路	21	210
阿寒	10	109
釧路	9	98
阿寒	8	87
釧路	7	76
阿寒	6	65
釧路	5	54
阿寒	4	43
釧路	3	32
阿寒	2	21
釧路	1	10

大正二年五月十四日 發行

道拓殖概覽

在現末幸四十四治

一之分萬十二百尺例比

- 未成鐵道線
- 豫定鐵道線
- 國界
- 郡界
- 村界
- 支廳管轄區域線
- 未開鑿道路
- 航路
- 港
- 官有地
- 御料地
- 公有地
- 民有地
- 農牧適地

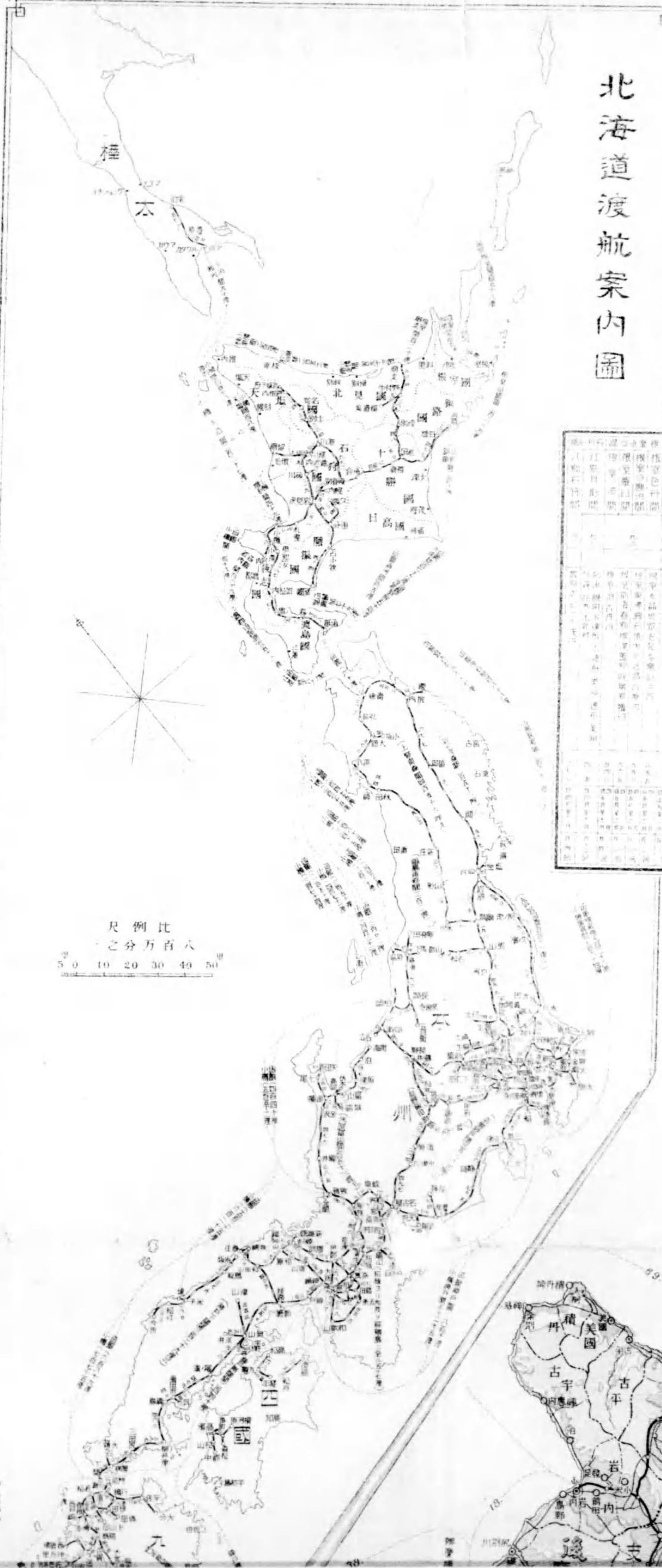
141 142 143 144

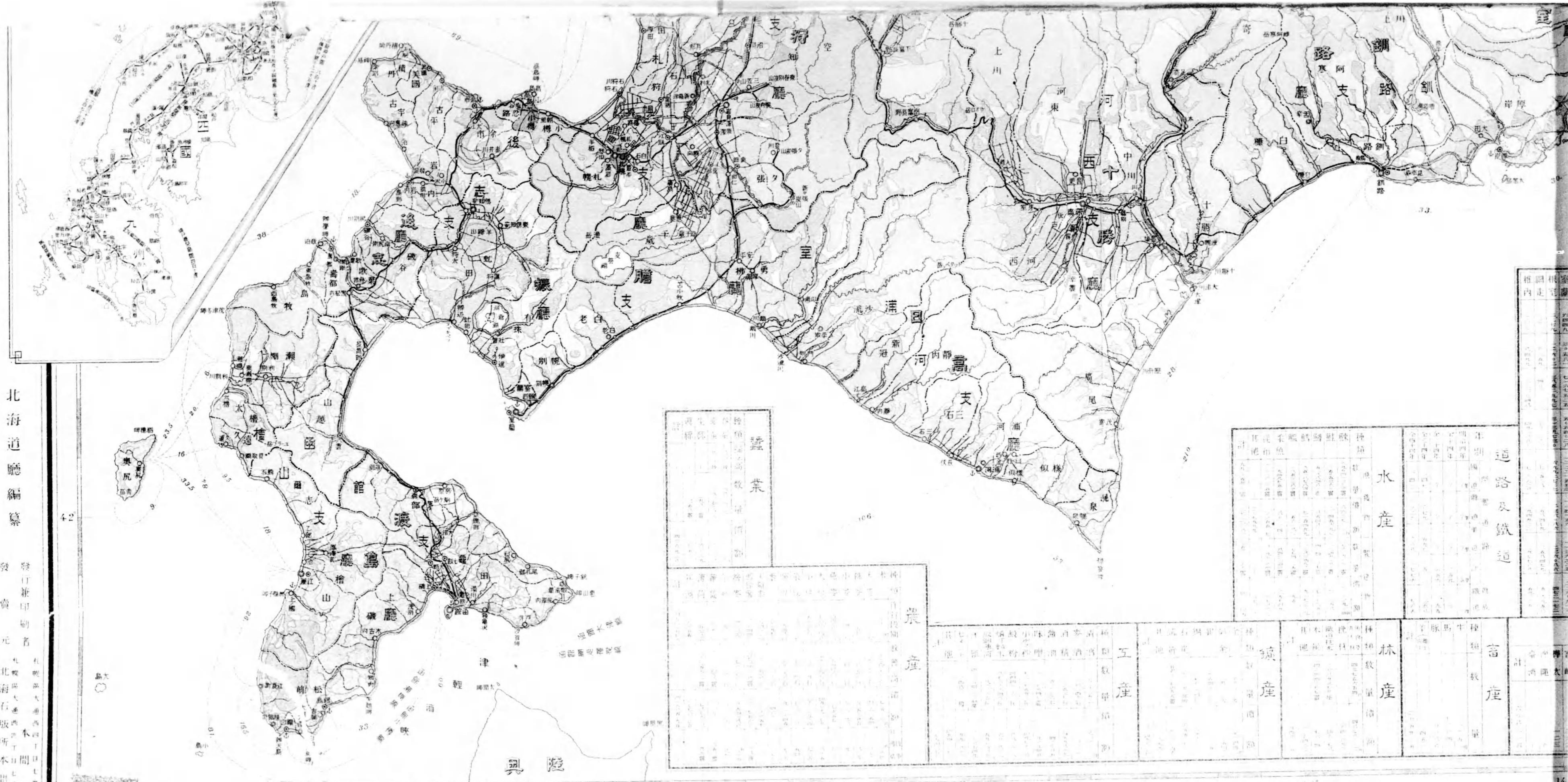
北海道渡航案内圖

北海道渡航命令航路一覽

航路名	航路種類	航路距離	航路種類	航路距離
札幌	支廳	100	支廳	100
旭川	支廳	150	支廳	150
網走	支廳	200	支廳	200
紋別	支廳	250	支廳	250
釧路	支廳	300	支廳	300
帯広	支廳	350	支廳	350
名寄	支廳	400	支廳	400
稚内	支廳	450	支廳	450
留萌	支廳	500	支廳	500
紋別	支廳	550	支廳	550
網走	支廳	600	支廳	600
旭川	支廳	650	支廳	650
札幌	支廳	700	支廳	700

尺例比
一分万百六





北海道廳編纂

發行兼印刷者
元
北海石版所
本間清造

27
668

道路及鐵道	
支線	...
...	...

水産	
...	...
...	...

鹽業	
...	...

農産	
...	...
...	...

畜産	
...	...
...	...

工業	
...	...
...	...

礦産	
...	...
...	...

林産	
...	...
...	...

140'

141'

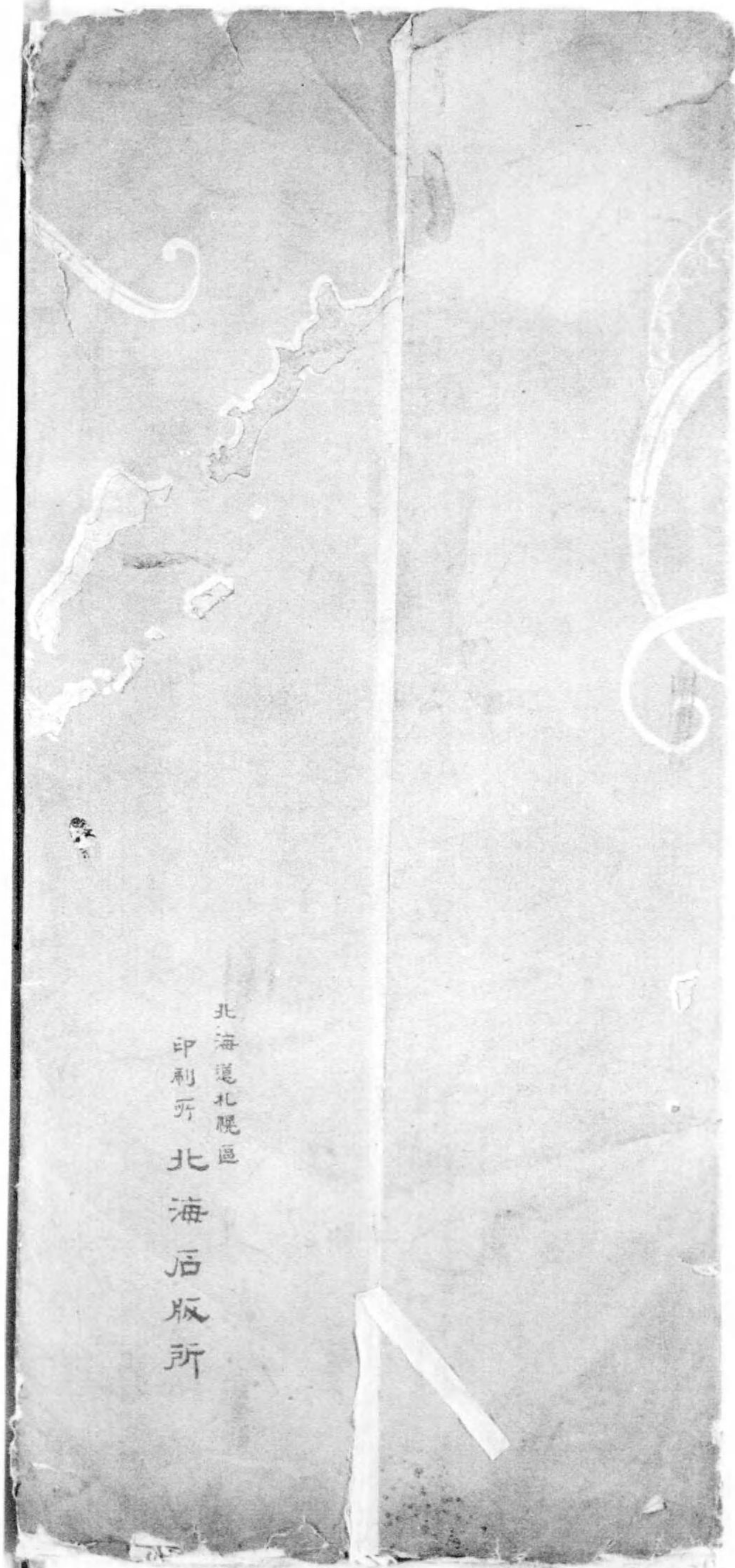
142'

143'

144'

14

終



北海道札幌區
印刷所 北海后版所